

URA と併走する外部支援 1： テラーメイドな組織的研究教育支援サービスの有効性

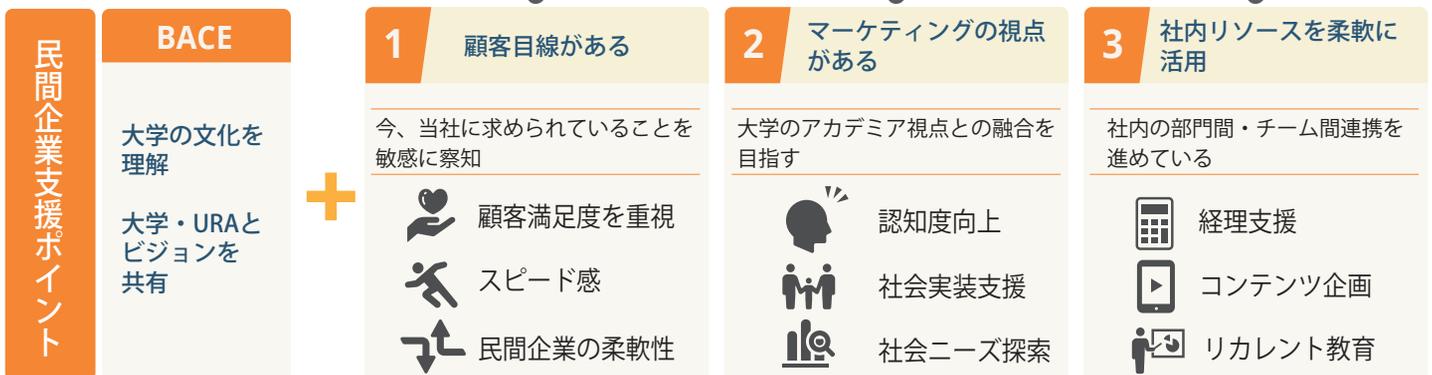
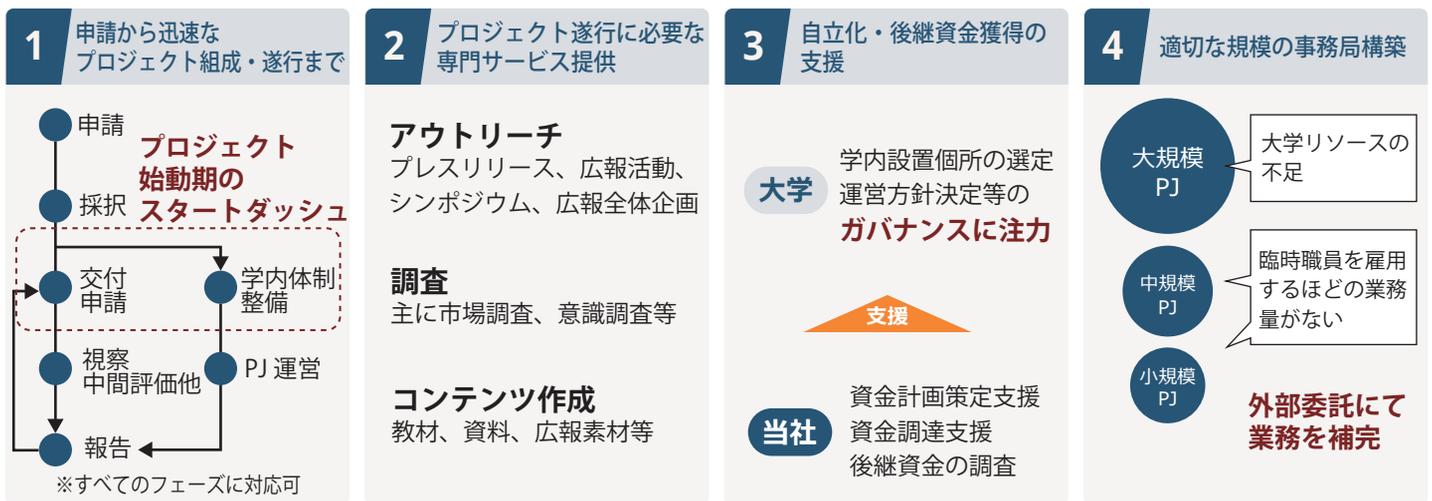
○重根美香、齋藤愛子 株式会社 早稲田大学アカデミックソリューション
Waseda University Academic Solutions Corporation

1. 背景・目的

URA は大学全体の研究活動の機能強化を支える役割が求められており、特定プログラムに対する長期間のコミットが難しく、リソースの限界や属人化による品質のばらつきも課題となっている。当社は民間企業の立場から各プロジェクトが求めるものに応じて支援サービスを提供し、テラーメイドに対応してきた。その取組みと成功事例から、民間企業による外部支援のポイントを明らかにする。

2. 当社の支援内容と民間企業による支援のポイント

当社支援は以下の4点を特徴とするが、民間企業ならではの3つのポイントに紐づく。



3. 業務標準化によるテラーメイドな支援

当社の特徴の一つに「業務標準化の視点」がある。個々の支援事例を蓄積し、暗黙知を形式知として標準化することで汎用性を高める。個々の業務ユニットはプロジェクトの事情に応じて組み合わせ、テラーメイドな支援を実現する。



4. 考察

大学に所属する URA は、学内の教員に等しくサービスを提供する、大学一丸となった研究推進を行うという性質を持つ以上、個々の教員、PJ にリソースを集中投下することは難しい。また、学校法人という組織的制約もある。民間企業はその特徴・強みを活かして個々の PJ を集中支援することができるうえ、大学が欲しいリソース規模に合わせて業務ボリュームや内容をカスタマイズすることができる。